



幼・小・中 PTA 代表者と教育振興会役員との懇談会

平成 21 年 1 月 31 日
岡山市総合教育センター

1 開会

2 出席者（自己紹介）

小学校 小 P 連会長 足立 剛（岡山中央小）

（ 昨年は、副会長。子どもの環境が様変わりしている。親として理解できないこともある。今、モンスター・ペアレンツが、騒がれているが、一部である。）

中学校 中 P 連会長 堺 史郎（香和中）

（ 幼・小・中と関わってきてここで、終わり。人の縁を感じる。感慨深い。更に志を新たにしたい。）

中学校 中 P 連副会長 板野 晃（吉備中）

（ 携帯となると、中学校では多くなり問題が大きい。）

幼稚園 欠席

教育振興会・・・辻会長・平山・井上・湯浅・鳥越・水田・小畑・青木・波多・松浦・遠藤・岡崎・赤坂・内海

3 挨拶・・・辻会長

松の内も過ぎました。お忙しい中、有難うございます。

県教育振興会の「教振だより 2 月号」（60 号）巻頭言として、「日本人として美しい心を取り戻す教育を」と題して書かせていただきました。

子どもたちの健全な教育をめざして何をなすべきかを忌憚なく話し合って頂きたと思います。

4 懇談・・・司会（井上運営委員）

（ 1 ）岡山市教育振興会の現状・・・内海事務局長

総会の冊子にそって、年間の事業について報告。特に「現代の子ども像を探る」という継続研修に沿って、「子どもの自立を考える」の演題のもとに元教育長・奥山桂先生を囲んでの座談会は、多くの方の共感を呼びました。

司会 きょうの柱の一つとして、「携帯」についての現状や取組みについても話し合いたい。

（ 2 ）PTA の現状

司会 PTA の活動の良い点悪い点についてフリートークで話して下さい。

PTA 家庭での使用が一番大切。幼稚園の時から、親が使っているのを子どもが見ている。親にとっては、必需品である。小学校では 1 年生から数%持って



いる。親への啓蒙が大切。個々にたいする規則を作って欲しい。親への働き掛けはしていないのが現状。

持たせている者とそうでない者との二極化で、学校全体で試行錯誤している。

PTA 薬物乱用の撲滅。景気が悪いと犯罪も多く、低年齢化している。政令市に向けて一緒に考えていく土台を作りたい。

PTA 携帯は、7割が持っているといわれている。危機意識は保護者にはみえない。昨年の会でもせっぱつまった意識を持った。「わが子にも危機が起こるぞ。」ということ親は考えていない。以前は中・高だったのが、小・中になっている。

親はトータルに未来を考えてほしい。

岡山市教育委員会・3P連・県PTA連合会・振興会など連携を持ちつつ活動することの大切さを痛感している。もっと自由にやっていきたい。PTA活動の自立を図りたい。政令市に向けて視野を広く持ち、飛躍していきたい。

運営委員 県教育委員会の囑託として、親・教職員の意識を高めるように働いている。親への研修をし、「いじめをなくす」ことを徹底したい。ポルノ・薬物に対してもっと罰すべきだ。

PTA 安全第一が拍車をかけている。小6は、4割が持っている。買う時に、使い方の約束を8割の親がしている。

1枚の文書では限界がある。禁止・賛成と問題が多いが、PTAが動かないといけない。

運営委員 先ず、親が厳しく言う。(裏サイトにもっと敏感になり、真剣に対処する。)

PTA 幼稚園PTA連合会との連携のありかたを変えていく。学校支援よりも親の学びの場が必要。

PTA PTA会長が、ある行事の時、「うちの教頭は、どこに居られる?」と、言われる。教頭先生におんぶするのではなく、改革が必要。

運営委員 単Pにより、温度差があるが、学びの場として企画や財政的にどのように関わるかが問題。PTAの部屋を作り、リーダーの活躍が望まれる。

司会 地域社会の活動が良くなっていくためには、公民館活動に組み込んでいかなければならない。

5 閉会挨拶・・・平山監事

携帯という大切な教育全般にかかわる問題・並びにPTA活動の根源的課題について、熱のある話し合いがもたれ、感動です。PTAの真価について、山陽新聞にも書かれていましたが、これから、どのように活動をしていけばいいかを考えさせる会となりましたことを感謝いたします。